

# コアファシリティ構築支援プログラム

## 背景・課題

研究室単位での設備・機器の困り込みが課題。新共用事業により、研究組織（学科・専攻規模）単位での共用の取組は一定程度進展してきたが、以下が大きな課題。

- ✓ 研究機関全体の機器更新・維持管理の戦略立案と財源確保が必要（新共用実施者アンケート）
- ✓ 異動後も変わらず研究できるよう、コアファシリティ、共用施設の充実が大事（CSTI木曜会合）
- ✓ 技術職員のキャリアが見えず、適切な評価が必要。技術力向上の機会がない（技術職員有志の会）

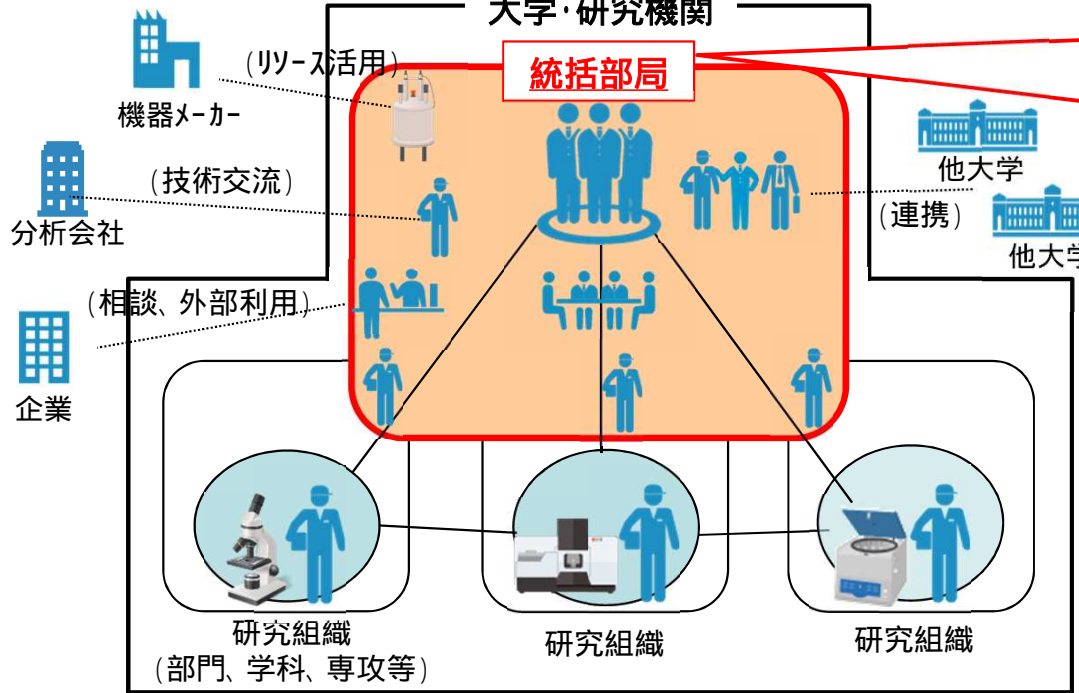
➔ 「新たな共用システム」の成果を発展させ、大学・研究機関が組織として継続的に優れた研究設備・機器を戦略的に整備・活用し、全ての研究者が自由に研究に打ち込める環境を実現する。

## 概要

「統括部局」の機能を強化し、学部・研究科等の各研究組織での管理が進みつつある研究設備・機器を、研究機関全体の研究基盤として戦略的に導入・更新・共用する仕組みを強化（コアファシリティ化）する。

- 目指す姿
- ◆ 大学・研究機関全体での戦略的かつ持続的な研究基盤の構築
  - ◆ 若手研究者等がすぐに、どこでも高度な研究が可能となる研究環境の構築
  - ◆ 新興・融合分野の研究開発や産学連携が一層促進される場の構築

イメージ



**「統括部局」の役割**（大学本部及び全学センター）

様々なリソースを活用し、研究基盤を機関全体で整備、維持管理  
 統括部局or研究組織での管理を意思決定する委員会の実施  
 学内共用設備群のネットワーク化、統一的な規定・システム整備  
 技術職員の集約・組織化。分野や組織を越えた研修の提供  
 外部機関との連携・ネットワーク化の窓口

**事業スキーム**

国  
↓ 委託  
大学・国立研究開発法人

- ✓ 支援対象機関：大学・研究機関
- ✓ **事業規模：約60百万円×4拠点程度**
- ✓ 主な支援内容：
  - 学内共用設備群のネットワーク化、統一的な規定・システム整備
  - 技術職員の集約・組織化、分野や組織を越えた研修の実施
  - 機関全体において研究基盤の組織的な整備・維持管理

**<H30 予算執行調査（研究機器関連）>**

- 大学・法人内で機器購入の見込み等を事前に把握・集約する体制を構築
- 共同購入等の検討・実施
- 共用等の取組について大学・法人間で連携

**<科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP 定点調査2018）報告書>**

「創造的・先端的な研究開発・人材育成を行うための施設・設備環境」

4.9 (2016)    4.4 【不十分】(2018)

**[評価を下げた理由の例]**

- ・研究施設・機器の老朽化が進んでいる。老朽化への対応がなされていない [多数の記述]
- ・研究機器等の維持管理・メンテナンスが困難
- ・技術職員の確保に苦慮している